

# ニューヨークでの説法

李 洪 志

一九九七年三月二十三日

遠く離れて、皆さんとなかなか会うことができません。しかし、皆さんは私本人に会えないのですが、実は修煉さえすれば、私はあなたの身近にいます。修煉さえすれば、私はあなたに最後まで責任を持つことができ、しかも私は時々刻々皆さんを見守っています。(拍手) もしこうしなければ、邪法を伝え、悪事をし、勝手に天機を漏らすことに等しいのです。もちろん、実践を通じて皆さんも分かっているので、このことについて私もあまり多く説明しません。私にできることであれば話しますが、できないことなら、私は口にしません。ですから、大法はずっと健全に発展しています。

前回私が皆さんとお会いした時、これほど多くの人はいませんでした。もちろん、多くの方は仕事で来られませんでした。つまり、前回皆さんとお会いしてから、また多くの方がこの道に入り法を得たのです。この法を迅速に発展させ、広く広めることができたのは、大法の威力によるものだと思います。同時に私たちが大法を広げる過程において歩んだ道は皆正しいからです。私たちも確かに学習者のために責任を負い、社会のために責任を負うことができたので、このような効果を収めたのです。皆さんにお会いする機会はとても少なく、アメリカに来るのは容易なことではなく、ビザが必要で、すぐに来られません。せっかく皆さんとお会いすることができたので、できるだけ皆さんに何らかの問題を解決してあげたいと思います。何か質問があれば出してください。私は皆さんにお答えします。この時間を充分利用して皆さんが疑問に思うことを解決することによって、アメリカで大法を更に健全に発展させて欲しいと思います。本来学習者に一部の具体的なことについて話したいと思いましたが、ここにいる一部の人たちは昨日、既に話を聞きました。彼らが早く来ましたので、昨日彼らのために一部の質問に答えました。しかしあなたは残念に思わないでください。昨日聞けなかった話は続けて質問してもいいのです。私は皆さんに解答します。

私はこの時間を利用して皆さんに修煉の事、つまり法を説きます。皆さんが最近かなり速く向上し、しかも相当速く向上していることを私は分かっています。私は前回アメリカから中国に帰った時に、中国の学習者に話したのですが、アメリカは非常に特殊なところで、たくさんのエリートがいて、特に中国系のエリートがいます。こ

これらの人は根基が割合良く、大法に対する理解が深く、速く理解することができ、次元の突破も割合速いのです。これは皆さんの強みです。しかし鼻を高くしてはいけません。異なる形の執着と妨害もあります。全てを克服してから始めてより速く向上できるのです。

次に私は病業のことについて話します。これも法を深く学んでいない多くの学習者をずっと困惑させていることです。しかし、私は本の中に既に書いてありますが、つまり私たち修煉者はいかに病気に対処するかということです。私は別の角度から説明します。実は私たち修煉者を常人と混同してはいけません。皆さんもご存知のように、昔和尚が出家すると、人は、もうその人を常人として見なさないのです。彼は既に半分、神になったのです。それでは、人間と神の間にどのような差異があるのでしょうか？ 人間には情があり、しかも非常に強いのです。人間はこの情のためにこの世に生きています。この情が無ければこの世で生活することもできません。何かが好きで、何かの趣味を持っており、何かのために嬉しくなったり、怒ったりして、肉親との愛情や夫婦間の愛情や子供に対する愛情や、やりたいこともあるし、やりたくないこともあり、好きなこともあるし、嫌がることもあります、等々です。この全ては全部人間の情です。この情が無ければ、常人社会もなくなるのです。この情の状態の下で、人間が常人という状態に合わせて行った一切は間違いとは言えません。それではなぜ、昔多くの方は人間の認識したことが全て間違いだと言ったのでしょうか？ このことを話した人は既に常人ではなくなり、彼らは別の境地から人間を見ていたからです。しかし常人の中にいる以上、それは間違いだとは言えません。私は昨日、常人という社会は非常に良くないと言いました。しかし、それも宇宙全体の上から下まで貫いている一つの次元であり、最も低い次元ですが、宇宙の特性と大法の最も低い次元における現れでもあります。この次元の人が存在しなくてははいけません。全ての方が修煉によって佛になるということもあり得ません。人類社会が存在しなくなるのもあり得ないことで、それはこのように存在しています。ただこの環境はとても特殊で、高い境地の人を作り出すことができるのです。高い境地から人間を見れば、違いが出てきます。ですから、私が言ったように修煉者は常人の観念で目にした、触れた、会得した一切の事を量ってはいけません。高い基準で自分を律しなければならないのです。

常人は病に罹ったら病院に行かず、薬を飲まないなら、それは常人の理、世間の理に合っていないので、当然人間に受け入れられません。常人は病に罹ったら、当然薬を飲み、病院へ行って治療を受けます。人間はこのようにこの問題に対処しています。これは間違いではありません。しかし一人の修煉者として、常人と混同してはいけません。少し厳しく言えば、あなたはもう人間ではないのです。先ほど言ったように、

人間には七情六欲があり、情のために生きています。皆さんは次第にこれらのことを軽く見て、次第に淡泊になっていき、修煉の過程においてそれを完全に放棄するまで至るのです。人間はこのために生きていますが、皆さんはこのために生きているわけではありません。あなたは人間と同じでありえますか？ 既に違うものとなりました。それなら、あなたはなぜ人間と違う高い次元の理で物事、自分自身が遭遇したことを判断しないのでしょうか？ ということです。ですから、修煉者はもしどこかの具合が悪くなったら、皆さんに教えたことがあります。それは病気ではありません。しかし常人が思っている病気の症状は修煉者が身体を滅するとき現れた状態と同じなので、常人はなかなか区別できません。ですから、修煉は悟を重んじます。もし状態が異なるなら、誰でも修煉し、悟ることが無くなるのです。体に良い事ばかりで、具合が悪くても神仙としての現れであれば、修めない人はいないのではありませんか？ 皆も修煉するのです。しかし、それでしたら修煉として認められず、修煉とも言えなくなります。このように修煉させるわけにはいきません。なぜならば、悟りがなくなったからです。ですから、修煉は必然的に真か偽か区別できない状態で皆さんを試しており、どのようにこの問題に対処するかを見えています。自分を一人の修煉者として見なすか、それとも普通の常人と見なすかを見えています。これはこの人が修煉できるか否かを見ているのではないのでしょうか？ もちろん、表面上普通の人は常人と何も違いがないようですが、実はあなたは一人の修煉者です。

私は昨日佛法修煉のことについても話しました。修煉という事は宇宙の中で最も重要な事です。人間がそのような境地まで昇華していき、羅漢、菩薩、佛、道、神になろうとしています。業力の満ち溢れている人間が神になりたいということは真剣に受け止めるべきではありませんか？ しっかりと高い基準で非常に厳しくこれらのことに対処し、正念で自分を律するべきではありませんか？ やはり常人の観点でこのことを考えるなら、あなたは常人ではありませんか？ これほど厳粛な事であり、あなたを佛にならせているのに、やはり自分を常人として見ており、常人の理でこれらの事を考え、それではいけません。それなら、厳粛なことではなくなり、修めることもできなくなります。佛、道、神は現在の和尚、現在の人間が認識しているようなものではありません。皆さんがご存知のように、佛や神に常人の情もありませんし、常人の考え方や常人の物事を認識する概念もありません。彼の考え方は別の境地にあります。人間の物事に対する考えや概念、観念などは彼らには全く無いのです。現在人々は佛、菩薩を人格化し、人間の情を付与しました。寺院に佛を拝み、香を焚きに行く人はいますが、彼は修煉し、敬いに行くのではなく、求めに行くのです。執着して佛に求めています。皆さん考えてください、これはなんと良くない心でしょう！

昔、人間が佛を拝むのは崇敬からでした。つまり佛を敬い、拝みに或いは佛を修めにきたのです。佛は偉大で、マクロのレベルで人類を見守っており、自分自身のために何かを求めようとしているのではありません。しかし、現在の人はこちらではありません。昔の人は佛、菩薩を思い出すと、皆一種の正念、一種の崇敬の気持ちが湧いてから始めて佛、菩薩という言葉に言及し、とても殊勝で偉大なことだと思っていました。しかし、現在の人はこのような考えが無く、気ままに口を開けると、佛のことを言います。佛、菩薩のことを軽々しく口にします。もっとひどいのは佛像を勝手に至る所で、でたらめに彫刻し、描き、どんなところにも平気に置いてあります。阿弥陀佛、聖母マリアの画もお墓に置かれ、まるで死んだ人を見守るように人間は神を指図しているようです。人間が神に指図しています。このような考えではありませんか？ 皆さん考えてください。それほど神聖で偉大な神は、手を振る瞬間に全人類を幸福にさせることができますが、人類を絶滅させることもできます。このように彼を扱っていいのでしょうか？ もし神が人間に慈悲を持っていなければ、人が無知に悪事を働く時、一瞬の間に人を影も形もないまで壊滅させてしまいます。人間は現在これらのことを理解できないので、敢えてこういう行動を取っています。私は以前話したように、実際それは佛をけなしていることです。この前、皆さんに言いましたが、献立の中に「佛が壁を超える」というような料理名もあります。佛は色や味への執着が無いのです。香りを嗅ぐと、壁の向こうから飛んできて食べるとか、これは佛を最もひどくけなしているのではありませんか？ また「羅漢料理」があります。羅漢も常人の如何なる色や味に対する執着は無いのです。それは羅漢が食べる羅漢料理と名付けていますが、彼を罵っているのではありませんか？ 羅漢は常人の食べ物汚いものと見ているので、彼の考えは人間と違います。現在人間は金銭と欲望のために、神、佛に対してこのような状態に至ったのです。佛、道、神には人間の観念がなく、常人の考え方を持っていません。しかし、先ほど言ったように、人々は佛を拝むときに崇敬の気持ち、修めたい気持ちから佛を拝むのではなく、佛に願いに行っているのです。息子を産み、金持ちになり、災いを消し、難を解消してくれるようにご加護を願っています。全てはこの気持ちです。しかし佛はこれらのことを構わないのです。佛は根本から人を済度するのです。人間を神仙のように常人の中で心地よく生活し、金がいくらでもあり、何の災い、何の難も無いようにすれば、本当に佛を修めたくなくなり、神にもなりたくないのです。なぜならば、それは既に神の状態だからです。なんと気持ちいいことでしょう。これは不可能なことです。

人は生々世々にも業を作っており、自分の業力で自分の来世と今世に難、苦痛、磨難、貧困、病気などをもたらしたのです。業力を償ってから始めて、幸福を得ることができ、順調になります。悪事をして返済しないことはいけないのです。宇宙にはこ

の理が存在しています。前世の事と来世の事は別の人のことのように思っていますが、実はあなたの生命を見る時、全体の生命過程を見るのです。一夜開けて、昨日した事と今日した事とは別々の事であり、昨日のことはあなたがしたのではないと思っていますが、全てあなた一人がしたのです。彼らはこのように生命を見るのです。ですから、先ほどの話の延長をすれば、常人の観念でこれらのことに対処してはいけないということを言いたかったのです。常人は病気に罹ったら薬を飲まなければなりません、一人の修煉者としては、どうしても薬を飲んではいけないと言っているのではありません。しかし、修煉のことを話しているのではありませんか？ 悟りを重んじるのではありませんか？ 全部悟ってほしいということでもなく、悟れた分だけでいいのです。あなたは「これは私にできません」、「どうしてもこの心を放下できない、やはり薬を飲まなければならない、煉功しても薬を飲まなければならない」と思うかもしれませんが、しかし私はどのようにこの問題を見ているのでしょうか？ 私はその人の悟性の低さをとても残念に思うだけで、彼はこの関門を乗り越えていません。本来なら、彼が向上し圓滿成就に向かって大きな一歩を歩むはずだったのですが、この一歩を踏み出せなかったのです。私はただこれを残念に思っているだけで、この人はもう駄目だとは言っていない。薬を飲んだから絶対に修煉することができなくなったとも言っていない。悟性というものは人それぞれで、根基も人によって違うからです。向上してから始めてこの関門を乗り越え、新しい認識を得ることができます。向上できず、このことについて完全に悟れなければ、このことにおいてあなたがまだ常人でしかないと物語っています。ところが、この人がもう駄目だとは言えません。

私は薬を飲むことと業を滅することとの関係について更に話しましょう。先ほど私は生々世々に積んだ業が病気を作り出したのだと言いました。業はどんなものなのでしょう？ 別の空間に存在している業はその微粒子が小さければ小さいほど、つまりその顆粒が小さければ小さいほど、力は強いのです。もし私たちのこの空間に浸透してきたら、それは微生物となり、最もミクロ的なウィルスです。ですから、病気に罹ることは偶然なことでしょうか？ 現在の医学、科学でそれを理解しようとしても理解できないのです。現在のところ、分子から構成された最大の一層の粒子から構成されたこの表面空間に現れた一種の現象としてしか認識できず、それが病気や腫瘍や炎症などと思われています。しかし、現在の科学は病気をもたらした根本的な原因を見出すことができず、それを常人の認識できる僅かな道理で解釈しています。もちろん、人間が病に罹った時、往々にして世間のこの次元の理に合っているのです。大抵、世間においてこの病気を誘発する外的条件があり、これでこの世間の理にうまく合ったかのように見えますが、実はこれはこの世間の理、この世間のそのような状態に合わせるために出現した外的な条件であるに過ぎません。根本的な原因として、病気が

この空間で生じたのではありません。ですから、薬を飲むことはこの病気、表面のウィルスを殺すのです。薬は本当に表面のウィルスを殺すことができます。しかし、煉功者の功は自ずとウィルスと業力を消滅しています。ところが、薬が表面上別の空間から浸透して来たウィルスを殺した時、如何なる物体も生きものなので、別の空間からのウィルス、つまり別の空間の業力はすぐ感知してこの空間に来なくなります。それで薬を飲んで治ったと思っています。しかし皆さんに教えますが、却って業がそこにたまってしまいました。人間は生々世々にこのものを蓄えており、ある程度までたまったら、この人はもう救う手立てもありません。同時に死亡のとき徹底的に消滅されてしまいます。生命を失い、永遠に生命を失ってしまうのです。これほど怖いのです。ですから、このような関係を説いたのです。薬を飲ませないのではなく、常人は病があったら治療しなければなりません。

しかし修煉の人なら、どのようにこのことに対処するのでしょうか？ あなたの身体を浄化してあげるのではありませんか？ 身体は樹の年輪のように生々世々があり、中心部から業力があり、各層にも業力があります。あなたが修煉している時、私は業力を中心からずっと外へと押し出し、押し出して、押し出して、押し出して、押し出しているのです。業力を完全に押し出してあげます。全部の業力は身体の表面から押し出してはいけません。全部身体の表面を通して押し出すなら、あなたはそれに耐えられないのです。ただ身体の表面から一部が出るだけで、突然病が来たと感じ、苦しくてたまりません。苦痛で耐えられなくなります。自分を常人と見なして薬を飲んでしまいます。それなら、薬を飲んでもいいのですが、私たちも常人が薬を飲んではいけないと言っています。ただあなたの悟性が足りず、この関門をよく乗り越えられなかったと言うだけです。私たちも修煉した以上薬を飲んではいけないと規定していません。このようなどうしても守らなければならない規定を作っていません。しかし、私は皆さんに法の道理を説いています。この業力を放出してあげたいのですが、薬を飲んでしまえば、また業力を押し戻してしまうので、どうやって身体を浄化してあげられるのでしょうか？ もちろん別の空間から全部押し出すことができます。ところが、この宇宙の法に一つの道理があり、つまりあなたのために業を滅しているときに、あなたはこの事で苦痛を嘗めなければならぬということです。以前他人にもたらした苦痛を、自分は同様に受けなければなりません。しかし、修煉者に同様な方式で全部を受けさせてはならず、それでは死んでしまい、福をもって害を与えた生命に報いるのです。しかし、あなたは精神的な苦痛を嘗めなければなりません。人に与えた苦痛に耐えると同時に業を償っています。なぜならば、あなたは苦痛を受けたからです。問題は孤立しているのではありません。この業を償っている時、苦痛を嘗めている最中に自分を修煉の人と見なさなければなりません。それを病気と考えていな

い時、この問題においてあなたは確かに高い次元から認識しており、常人としての考え方ではありません。あなたの境界と考えはこの問題において向上してきたのではありませんか？ このことではありませんか？ 動作をするだけで向上できるなどはあり得ません。動作は圓滿成就するための補助的な手段です。

人の心が向上しないなら、永遠に次元を高めることができません。人々が言ったように、お経を読み上げれば佛になれるということでもありません。また多くの良い事をすれば佛になれるとでも思っている人がいますが、全て笑い話です。皆、有為の法です。あなたは着実に修めなければ、お経を読み上げても何の働きがあるのでしょうか？ 修めなければ絶対佛になることはあり得ません。釈迦牟尼佛が法を伝えた当時、経書もなかったのですが、イエスが彼の法を伝えた時にも経書がなく、人々はただ着実に修めるだけでした。自分の心を修めなければどうして高い次元に上がってこられるのでしょうか？ その境地の要求に到達することができなければ、どうして高い次元に上がってこられるのでしょうか？ 常人の七情六欲や各種の執着心、金に対する欲望は佛になる気持ちよりも強烈ですが、これで天に上がることができるのでしょうか？ 絶対あり得ません。皆分かったと私は思いますが、つまり一人の修煉者として既に超常の人間になったのです。超常の人間として、身体の苦痛にどのように対処するのでしょうか？ 常人に病気があるのは当然のことですが、あなたの場合、私はあなたの身体から外へ業を押し出しているのです。表面まで押し出した時、人の身体の表面にある末梢神経が一番敏感なので、身体の具合が悪く、病気に罹ったかのように感じます。しかも重く現れる場合もあり、こうなるのです。こうなる以上、皆さん考えて見ましょう。自分を常人と見なし、それが病気だと思えば、もちろんそれでもいいのです。薬を飲んでもいいのです。この関門はあなたが乗り越えられなかったので、少なくともこの問題においてあなたは常人です。いつかこの関門を乗り越えたら、このことにおいてあなたは超常的になります。ところが、佛になろうと思えば、あらゆる問題に対する認識においても超常でなければなりません。その心を放下できなければ、この関門を乗り越えることができず、圓滿成就できなくなります。ですから、もしこの機会を失ったら、この関門を乗り越えられなくなります。一部の責任者、古い学習者はよく分かっているので、学習者が薬を飲むのを見ると気になります。もちろん、彼らは私のように対処できず、皆お互いによく知っているから、「薬を飲んではいけない」と言ってしまいます。もちろんその人はまだ悟らず、「煉功したらなぜ薬を飲んではいけないのか？」と思います。本人が悟らないなら難しくなります。皆薬を飲んではいけないと強制的な取り決めなどはありません。私はただ薬を飲むか飲まないかということについて、修煉者に対しての道理を説いただけです。常人は薬を飲んではいけないと言っているのではありません。

私たちのこの法は世間にあって修煉することを伝えています。修煉の人が誰でも佛になれるとは限りません。非常に精進し、法に対して確固とした気持ちを持っている人は、圓滿成就に向かったの進み具合は速いものです。あまり精進しない人なら、圓滿成就に向かったの進み具合はかなり遅いはずですが、修めているようですが、実は修めておらず、大法を信じているようですが、信じていない人は圓滿成就できないかもしれません。しかし修煉という立場から言えば、無駄に修煉したことにはならないかもしれません。今世で修煉しましたが圓滿成就できず、駄目になりましたが、来世にかけてみて、来世できるかも知れませんが、彼は続けて修めたくないかも知れませんが、大法の中でなんとと言ってもいささかの心を放下することができ、また佛法も聞き、常人より良くなったので、来世の福を促成するかも知れませんが、来世は大金持ちになり高官になるかも知れませんが、それらのものは福にしか換えられません。彼が高い次元まで修煉することはできませんでしたが、修煉が無駄になるはずはないのです。この道理です。一人の修煉者として、今日法を聞いた以上、最後まで修めてください。佛法は誰にでも聞けると言うことではありません。実は皆さんに教えますが、アメリカというところは割合特殊なのです。私は本来二年前からもう法を説かなくなりましたが、アメリカでは華人がとても多く、アメリカ人にも多くの善良な人がいるため、私は彼らにも法を得てほしいのです。実は系統的に説いているのではなく、ここの状況に応じて説いているだけです。本が既にあるので、皆学ぶことができるようになりました。煉功点もあって皆さんは煉功することもできます。人が佛法と出会うようになるには、それは数千年に一度しかないのです。そして、あなたには必ずしもこの機縁があるとは限りません。六道輪廻の時、人間が異なる動物、植物、物質に転生し得るからです。数百年か千年に一度、人間に生まれ変わりましたが、この数百年数千年の転生の中でその時期にちょうど人間になり、この法に出会えるところに転生しなければなりません。また世間でその時期に大法を聞く機縁があり、この講習班に参加できるようにならなければなりません。もちろん、多くの機縁が寄せ集められて始めて、この法を得ることができます。なかなか容易なことではありません。

私が説いたのは佛法です。皆さんもはっきりと分かっていると思います。私は常人の中の道理を説いておらず、しかも私が説いた多くの問題は全て常人の中で従来人が言及したことのないことであり、常人の知識でもありません。

薬を飲む問題について今私はもう一回説きました。この問題は各地区においても突出している問題だからです。大法を破壊しようとする人は薬を飲まないということに対して、「この功を練習すると薬を飲ませてくれない」などと言いました。実は私は



薬を飲ませてあげないのではありません。もちろん在席の責任者も仕事の進め方に気をつけなければならず、人に薬を飲ませないように強制しないでください。私たちはただ道理を明白に説明するだけです。修めたければ修めてください。修めたくなければ毒薬を飲んででもそれは常人の事です。この心が変わらなければ誰にでも為す術はありません。私たちは縁を重んじて、善を勧めることしかできません。無理強いして人を強制するのは修煉ではありません。

もう一つのことについて話します。今日午後の時間を全部皆さんのために使いますから、私は話し終えてから、どうぞ質問を出してください。私はそれに解答します。中国大陸の「文化大革命」の後に生まれた若者は、佛や菩薩や神に対して理解がとても浅いのです。私が伝えたのは佛法です。一部の人にはそれが良いと分かっていますが、一部の言葉をやはり理解することができません。佛家の事についての知識はとても限られており、つまり佛家に対しての認識ははっきりしていません。

次に私は阿弥陀佛と釈迦牟尼佛のことについて簡単に触れたいと思います。私これから話すことは経書と同じではありません。私が話す内容は釈迦牟尼佛が二千五百年前にも話したことがあります。当時の和尚は後世の人に伝えませんでした。経書は釈迦牟尼佛がこの世を去って五百年後に系統的に整理されたものです。ご存知のようにその時、中国はちょうど元朝でした。ジンギスカンが当時何を言ったのか、今それを知っている人はいますか？ ただし、何と言っても佛法ですから、断片的で不完全のものと口による伝承のものはずっと伝わっています。しかし往々にして、佛がその話をした時期、場所、場合、含意、相手などの要素を失いました。伝わっていく過程で、圓滿成就していない人は皆、常人の観念を持っているので、皆自分の観念に合うものを加えがちで、それによって佛法を変えてしまったのです。理解できない部分を削除し、更に次第に佛、菩薩などの神を人格化したのです。自分に合っているもの、理解できるものなら伝えますが、自分の心理、要求に合っていないもの、自分の観念に合っていないものは言いたくないので、それは伝わってきませんでした。

まず、釈迦牟尼佛について話します。釈迦牟尼佛は歴史上確かに存在していた人物であり、二千五百余年前、古代インドで、修煉の人に彼の佛門の修煉方法を残しました。それは戒、定、慧と言います。佛教について言えば、それはただ現在の人々が政治的な目的で名付けた言い方です。釈迦牟尼佛は宗教を認めないし、自分のものが宗教だと言っていませんでした。人間はそれを宗教と言ったのです。彼はただ佛法を伝え、彼の法門の圓滿成就できる方法を説いただけです。それは戒、定、慧と言います。もちろん、中の詳しいことについて経書に記載がありますから、私は多く話しません。

ご存知のように、阿弥陀佛は極楽世界を、薬師佛は琉璃世界を持っています。佛は皆一つの天国世界を主宰しています。佛、菩薩、如来は私たち中国人の言い方です。如来は天上において法王と呼ばれ、つまり彼のその天国の主宰者です。しかし彼の管理方法は人間のように行政手段、法律をもって管理するのではなく、このようなものはありません。彼は全て慈悲と善なる念によるのです。皆とても良く、基準に到達してから始めてその世界に入ることができるのです。それで、佛は皆自分が主宰している世界を持っていますが、いままでも釈迦牟尼佛がどの世界を持っているかを知る人はいませんでした。釈迦牟尼佛が本来誰であるかも誰にも分かりません。誰も釈迦牟尼佛の世界はどこにあるかを知らないのです。釈迦牟尼佛が娑婆世界にいたと言った和尚はいますが、皆さんに教えますが、娑婆世界はどこにあるのでしょうか？ 私たちの三界の中にあります。そこはどのようにして佛の世界となり得るのでしょうか？ なんと汚いところでしょう。皆そこから脱出したいと思っているのに、どうして佛の世界となり得るのでしょうか？ その理由は和尚でも説明できず、宗教にも記載がありません。実は釈迦牟尼佛の次元はとても高いのです。この宇宙は非常に大きいのですが、後にその構造、宇宙の構造について話します。釈迦牟尼佛が下りてくる前にいた最も低い次元は、その次元から直接人に転生した次元ですが、第六層宇宙にあります。第六層の天ではなく、第六層の宇宙です。後ほど私は宇宙がどれほど大きいのかについて話します。

第六層の宇宙に彼は一つの天国を持っています。彼がそこで創造した天国は大梵世界と言います。つまり釈迦牟尼佛は大梵世界からこの世に転生して来たのです。彼は法を伝え人を済度し、彼の弟子を済度するために、大梵世界からこの世に転生してきました。釈迦牟尼佛に法を伝えられ済度される弟子は、皆少なくとも第六層の宇宙以上まで修めなければなりません。それほど高くまで修めるのです。ですから、釈迦牟尼佛は下りてから、ずっと弟子が転生し修煉するのを見守っており、彼の世界に帰りませんでした。三界に大梵天というところがありますが、彼はそこにいます。大梵天も彼が名付けた名前です。彼は大梵世界から来たので、それを大梵天と呼びました。彼はそこで自分の弟子を見守っています。彼の弟子には皆印を授けました。彼が授けた印は全て「卍」符で、皆印を授けられた弟子です。釈迦牟尼佛の弟子であるかどうかは高い次元で見るとすぐ分かります。彼らは高い次元まで修め、釈迦牟尼佛が彼らをそれほど高い境地まで済度しなければならぬので、一世で成就できないのです。こうして繰り返しながら二千五百余年修めましたが、現在は最後の一回で圓滿成就になるはずですが、今回で圓滿成就したら、彼は弟子を全部連れて帰り、皆娑婆世界を離れるのです。私たちの大法の中にも釈迦の印を授けられた多くの弟子が法を得ていますが、釈迦が印を授けた弟子の多くは和尚になったものが多いのです。常人の中にも

います。常人の中にいる多くの人は既に大法を得ました。実はここまで話しましたが、皆さんに教えますが、私が伝えたこの法は皆さんがどうしても法輪世界に行かなければならないということではなく、私が伝えたのは宇宙全体の理です。私がこれほど大きなものを伝えていきます。彼らも皆この法を得ようとしています。新しい宇宙は既に構成され、法は乾坤を正しているのです。宇宙の法に同化して始めて元に戻ることができます。釈迦牟尼佛は系統的にとっくに彼の弟子のために段取りしており、彼はこの日を知っています。また他の多くの異なる世界と他の正法門の弟子が法を得ています。釈迦牟尼佛の弟子の大多数は漢地にいます。インドにはもういないのです。世界各地にもばらばら分布していますが、とても少ないのです。大部分は漢地にいますが、漢地というのは、つまり中国大陸のことです。

先ほど、私は簡単に釈迦牟尼佛と彼の弟子の状況を紹介しました。次に私は阿弥陀佛について話します。阿弥陀佛といえば、人々は極楽世界があると知っています。極楽世界はどこにありますか？ 阿弥陀佛は誰でしょうか？ 阿弥陀佛について、佛教の経書に紹介があり、その部分について私はもう話しませんが、経書に記載されていないことを話します。ご存知のように、人々は佛が話した宇宙の一部の構造に関する内容を伝えていきます。須弥世界というところがあり、つまり須弥山の説です。私たちの現在の地球、及び三界内外の天体は須弥山の南にあり、南瞻部洲と言います。地球は須弥山の南部にあります。「この須弥山はヒマラヤ山ではないのでしょうか？ 当時のインドは南瞻部洲ではありませんか？」などと思う人がいますが、これとは別の事です。彼は佛であり、この世での認識から話しているのではなく、彼の理は神の角度から説かれたのです。彼の考えは人間という基点からではありません。

須弥山は確かに存在しています。それなら、なぜ人はそれを見ることができないのでしょうか？ 望遠鏡でもできないのでしょうか？ それは最大の一層の分子から構成された粒子で構成したものではないからです。皆さんに教えますが、原子で構成した粒子はともかく、分子から構成された粒子、分子から組成された、私たちの最も表面の粒子より小さい粒子で構成した物質でも、人にはもう見えないのです。しかしこの須弥山は原子から構成されたので、人間には全然見えないのです。しかし、最近天文学や宇宙科学を研究する人は、一つの現象に気づいたかもしれません。彼らは宇宙の中に見られる星がいくらあるとしても、あるところに至ると、星がなくなることを発見したのです。こちら側に星が多く、たくさんの銀河系がありますが、ある処に至ると一斉に消えてしまいます。科学者はそれを宇宙壁と呼んでいますが、これが何故であるかは解釈できません。なぜ向こう側には無いのでしょうか？ 実は須弥山に遮られており、この山があまりにも大きいからです。どれほど大きいのでしょうか？

その頂点は第二層宇宙の中心にあり、私たちのこの小宇宙を超えており、非常に大きいのです。ですから、これほど大きな山なので、人々は全くそれを想像できないのです。この山のほかの部分を見るのは人間には不可能です。地球のような一粒の小さい丸い球でも、地球の向こうから北京を見ようとしても全然できません。それほど大きな山なので、その大きさも想像がつかないのです。彼も須弥山の他の幾つかのところに他の世界があると言いましたが、それについて私はこれ以上触れません。

それでは、なぜこのような一つの山があるのでしょうか？ では須弥山について話しましょう。皆さんに教えますが、実は須弥山は即ち阿弥陀佛と観音菩薩、大勢至菩薩の一種の形象の現れです。しかし、完全にそれを形象だとも言えません。なぜなら、彼らが佛であるため、人間の形があるからです。集まれば形になり、散れば物になることができますが、彼には形象があります。散れば物になるのは彼の変化によるものです。人間は佛が見えないから佛は身体が無いと言っています。佛の身体が原子から構成されているので、あなたにはもちろん見えないのです。佛が身体が無いと言ったのも正しいのです。それでは、須弥山は原子から構成された以上、私たちの人間の目ではそれを見ることはできませんが、ある意味から言えば、それは阿弥陀佛と観音菩薩、大勢至菩薩を代表しています。ですから、須弥山は一つではなく三つであり、同時に運動しているのです。私たちのこの物質空間にある物体は固定しており、動かないようですが、如何なる空間の物体も運行しています。ご存知のように、分子は運行しており、原子もそうですが、全てのものは皆運行しています。電子が原子核をめぐって運行しており、全ては運行しているのです。物質は運行しているのです。須弥山はある時に一直線になり、ある時に三角形になり、変化しているのです。人々は違う角度から見た時、違う状態下で見た時、必ずしもその真実を見ることができるとは限りません。もし一の字に並んでいたらそれが一つの山だと見えます。昔、それを見た修煉の人はいましたが、説はそれぞれ違っていました。彼にその具体的な状態が見えなかったからです。それでは、それは阿弥陀佛と観音菩薩、大勢至菩薩の一種の象徴である以上、何の作用があるのでしょうか？ 実は皆が言う極楽世界は須弥山の中にあります。しかし、この山は私たち人間が現有の物質に対する認識のような概念ではなく、須弥山以下は全て水です。時間があまりないので、この辺にしましょう。

次にこの宇宙空間の構造について話します。この宇宙はどれほど大きいのか、人間の言葉で表現しがたいのです。人間の言葉はそれを表現できませんが、表現できても、あなたの頭はそれを納めることもできず、理解できないのです。それはあまりにも巨大で、不思議なほど大きいのです。神にとっても不思議なのです。ですから、宇宙がどれほど大きいのかをはっきり説明できる佛、道、神は一人もいません。先ほど言い

ましたが、一般的に認識された宇宙は、実は小宇宙範囲のことを言っています。前回アメリカに来た時に話しことがあります、二十七億余りの銀河系のような星の体系、大体このくらいの数で、三十億未満ですが、この範囲の星が一つの宇宙を構成しています。しかもこの宇宙は外の果てがあり、境があるのです。これが私たちはいつも言う宇宙です。しかしこの宇宙を超えたら、更に遥かに遠いところにまた宇宙があります。ある範囲にまた三千のこのような宇宙があります。しかもこの三千の宇宙の外側に殻があり、第二層の宇宙を構成しています。第二層の宇宙の外にまた大体三千の第二層の宇宙のような大きな宇宙があり、外には殻があり、第三層の宇宙を構成しています。まさに小粒子から原子核を構成し、原子核から原子を構成し、原子から分子を構成し、ミクロの粒子からより大きな粒子を構成するという仕組みの状態のようです。私が言ったこの宇宙はやはりこの一つの仕組みにある状態です。言葉では言い表しようがなく、人類の言葉ではうまく表現する方法はありません。この状態下ではこのような状態ですが、それはとても多くの系統があり、無数の原子から分子を構成するように多く、宇宙にあまねく分布しているのです。宇宙に私たちのこの小宇宙のような宇宙が一体どれくらいあるのか、誰も答えられないのです。先ほど、第二層の宇宙、第三層の宇宙について話しましたが、釈迦牟尼佛が第六層の宇宙から来たと言われていますが、これはただ一つの仕組みの中で、このような一つの仕組みの中での話です。小さい粒子から大きい粒子を構成し、大きい粒子からより大きな粒子を構成するように、皆同じ体系にあります。しかし一つの粒子の仕組みだけではなく、非常に多くの異なる次元の粒子は天体にあまねく分布しています。

この宇宙は非常に複雑です。私はスウェーデンで講習班を開いた時、少し具体的に話しました。私は八十一層の宇宙のことまで説きましたが、実は八十一層にとどまることなく、人類の数字では数え切れないのです。人類の数字の最大の単位は兆ですが、佛が計算するとき使う最大の数字は劫です。一劫はつまり二十億年に相当し、二十億年で一劫を成しています。劫でもってこの宇宙の階数を数えることができず、天の層の数ではなく、宇宙の層の数です。これほど膨大なのです。人間について言えば、それはあまりにも微小です。地球も一粒の塵埃に過ぎず、しかも言うに足りないほど小さいと前回の時に話しました。しかし、このような範囲内には数え切れない、非常に複雑な空間構造があるのです。この空間構造はどんな形状なのでしょう？ 私は前回にも言及しました。私たち人類はどの次元の空間に生活しているのでしょうか？ 分子の最大の粒子で構成した表面物質の中に生活しており、分子と星との間に生活しています。星も一つの粒子で、膨大な宇宙の中でそれも取るに足りない微々たる塵埃です。銀河系も取るに足りない微々たる塵埃に過ぎません。この宇宙、私が先ほどいった小宇宙も取るに足りない微々たる塵埃に過ぎません。私たち人類が見ることので

きる最大の粒子は即ち星で、最小の粒子は即ち分子です。私たち人類は分子と星との間の粒子に生存しており、この空間の中にいます。あなたにはそれはとても広いと感じられますが、実は角度を換えて言えば、それは非常に狭いのです。

更に、角度を換えて話します。原子と分子との間の空間は一つの空間ではありませんか？ 理解しにくいかもしれませんが、皆さんに教えますが、いま科学者は原子から分子までの間は二十万の原子が並んで始めて分子に達することができるというような距離があると知っています。しかし物体が小さければ小さいほど、つまり粒子は小さければ小さいほどその全体の体積は大きくなります。それは面であり、孤立している一つの点ではないからです。この分子は非常に大きければ大きいほど、物質の顆粒、粒子は大きければ大きいほどその空間の体積は小さく、空間全体の体積は小さくなるのです。もしその空間に入ったらそれがもっと広い空間だと気づくはずですが、もちろん、その状態にあって始めてその空間に入ることができます。人間の考え、人間の概念、人間のいまの物質世界に対する認識の仕方です。それを認識すれば、どうしても納得がいかず、あなたもその空間に入ることができません。人類は自分の科学が如何に発達しているかと言っていますが、とてもかわいそうです。分子との一層空間をも突破しておらず、別の空間を見ることもできないのに、うぬぼれています。原子から構成されたその空間を見るどころか、皆さんに教えますが、これは一つの大きな空間体系の区分で、原子と原子核の間は空間であり、原子核とクォークの間は空間であり、クォークと中性微粒子の間もやはり空間です。この物質の最も本源までの次元の仕分けは人類の数字でも、佛が言った劫でも計算できないのです。

人類は本当に物質を認識しようとするなら、人間現有の知識範囲内の理解しかありません。人間は永遠にもこの宇宙の物質の最も基本的なものは何であるかを知ることができず、永遠にも探測することができません。ですからこの宇宙は人類にとって永遠の謎です。もちろん高級生命と常人には永遠にこの宇宙を知る方法はないと言っているのではなく、修煉者には方法があります。つまり修煉にほかなりません。人類の技術的な手段を通じて佛ほど大きな能力に到達し、多くのレベルの宇宙を見通すことは、人類には永遠に到達することができません。人には七情六欲と各種の執着心が存在しているので、もし本当に佛の境地に達したとすれば、星球大戦、宇宙大戦が起こります。しかし、神は人類にこのようにさせることはありません。ですから、人類の科学が一定のレベルに達するという事は人類にとって必ず危険なことになります。人類の道徳はそれほど高いレベルに達するはずはありませんので、人類の文明は壊滅されてしまいます。これは不公平ではなく、人類自身はだめになり、人間の道徳はついてこなかったからです。しかし逆に言えば、人間の道徳がついてきたら、人間は神

になり、人間的な手段で探求する必要もなく、目を開ければ全て見えてしまいます。宇宙は取りも直さずこうなのです。それを知るにはこの境地を超えなければなりません。

先ほど大きさの異なる粒子が構成した世界について話しましたが、実はこれだけにとどまることなく、私たちの分子という現有の空間の中にも、まだ多くの空間があります。人間には見えないのです。先ほど言いましたが、分子から構成された最大の顆粒は、即ち私たち人間の最も表面上にある物質です。鋼、鉄、木材、人間の身体、プラスチック、石、土ないし紙、等等。人類が見たこれらのものは、最大の分子から構成された最大の一層の粒子で構成したもので、見ることができます。もし分子で構成した粒子は最大の粒子の空間にある粒子より僅かばかり小さければ、あなたには見えないのです。この分子はまたより小さい粒子の空間を構成することができます。この分子が構成した最小の粒子から表面の最大の粒子までの間にとっても多くの空間が存在しています。つまり異なる分子から構成した大きさの異なる粒子はこの非常に複雑で異なる分子の空間を構成したのです。ある人が突然消えて、また突然他の所から出てきたという話を人々は信じませんが、もしその人の身体が全て分子から構成されていても、その顆粒が非常にきめ細かければ（修煉を通じてそうなることができます）、彼はこの空間を通り抜けることができます。彼は突然消えてしまい、あなたに彼が見えないのですが、突然他のところからまた出てきて、これはとても簡単なことです。

先ほどこの空間の構造について話しましたが、前回より詳しく話しました。人間にあまり多くのことを教えてはいけません。人間はあまり多くのことを知ってはいけません。私が話したこれらのことを人間は全部探測することができません。人類の現在の科学は実は一つの誤った基点から発展してきたのです。宇宙、人類、生命に対しての認識は全部間違っています。ですから、修煉界では私たち修煉の人は現在の科学を全く認めておらず、それが一つの誤りだと思っています。もちろん、常人は皆このように学んできており、これほど多くの分野に分けられ、皆各分野に何らかの成果を収めたのです。しかしその基点が誤っているため、人類の認識は永遠に真相から相当離れています。

人類の科学に対しての認識は永遠に手探りのものでしかありません。盲人が象に触れるように、科学は現在まさにそうです。象の足、或いは鼻に触ったからといって、科学がこのようなものだと言います。実は真相の全てを理解することはできません。私は先ほどなぜこのように言ったのでしょうか？ 人類は現在人間が進化によって発達してきたと思っていますが、進化論は全く存在していないものです。私たち修煉

界では、人間が自分で自分を踏みにじっていると思っています。人間が自分を猿と結びつけるなど、とても馬鹿げた話だと思えます。人類は決して進化して来たのではありません。ダーウィンは進化論を出した時、欠陥だらけだったのです。その最大の欠陥は猿から人間まで進化し、古代生物から近代生物まで進化したというのに、その中間の過程は無いということです。人間だけでなく、生物、動物も進化の中間過程がありませんでした。これはどのように解釈するのでしょうか？ 実はそれぞれの歴史時期に、人はそれぞれの生存状態があります。つまりその生活環境は、全て当時の人間に合わせて生じたのです。

このことに言及したので、私は更に現在の人間の考え方について話します。道徳の墮落によって、多くの考え方も変わりました。昔多くの予言者も言いましたが、ある時期が来たら、人間は妖怪のような格好をしようと言っていました。頭髪を赤に染め、真ん中にただ一束の髪を残し、両側を全部剃ってしまいます。またある時期になると、人間は犬にも劣ります。多くの方は犬を息子、子供とし、ミルクを飲ませたり、高級なものや有名ブランドを着させたり、車に載せたりしています。更に犬を息子と呼んでいます。町に多くの乞食がいます。私もこのような人と会ったことがあります。アメリカにもこのような人はいますが、手を出して、「25セントをください」と言うのです。彼は確かに犬にも劣ります。ところが皆さんに教えますが、この地球にはもし人間がいなければ、何にもないのです。人間がいたからこそ、地球に万事万物が生じたのです。一切の動物、生物、植物は、皆人間のために生き、人間のために滅び、人間のために成り、人間のために用いられています。人間がいなければ、何もありません。六道輪廻の転生もすべて人間のためにあります。地上の一切は人間のために造られたのです。現在これらの考え方は皆逆方向に変化しています。動物が人間と平等になることはどうして許されるのでしょうか？！ 現在動物は人体に取り憑いて人間を操っています。天はこれを許さないのです！ これはいけないことです！ 人間は最も偉大であり、人間は修煉して神に佛になることができ、しかも人間は高い次元に起源を持っています。それに対し、これらの生物の多くはここで造られ、地球で造られたものです。ついでにこの問題を触れました。

私が今話した進化論ですが、私たちの見るところではそれは存在していないものです。人類は長い歳月の中で、何度も異なる時期の文明を経て、人類の道徳が墮落する度に、文明が壊滅され、最後に残された極少数の人が生き残り、僅かな先史文化を継承し、もう一回石器時代を経て発展してきました。石器時代も一度だけではなく、数回の石器時代があったのです。現在科学者は幾つかの問題に気づいたのですが、多くの考古学によって発見された物は同じ時期のものではないと気づいたのです。しかし



進化論のモデルで無理やり当てはめても、現実の前で解釈できません。異なる歴史時期の人間が、この地球で異なる時期の文明を残したことに私たちは気が付いたのです。古代エジプトのピラミッドのことですが、現代人は皆エジプト人が造ったものだといいますが、それは現在のエジプト人と全く関係はありません。人間、民族が自分の歴史に対して持つ認識も全て誤っています。ピラミッドとエジプト人とは全く関係がありません。先史文明のある時に造られ、その後の大陸プレートの変動によって水の中に沈んでしまったのです。第二次文明が間もなく出現し新大陸を造った時に、また水の底から上がって来ました。当時の人はとっくに存在しなくなりましたが、その後また現在のエジプト人が現れました。エジプト人はピラミッドの機能を発見したので、また幾らかの小さなこのようなピラミッドを造りました。中に棺を置くのにちょうどいいと思って、そこに棺を置きました。新しく造られたものもあり、古いものもあります。それで、現在の人間はそれが一体いつの時期のものかを区別することもできなくなり、歴史は全て乱されました。

マヤ人の文化は、現在のメキシコ人と関係があると多くの人は言っています。実はメキシコ人とは全然関係はなく、彼らはただスペイン人と原住民との混血児です。しかし、マヤ文化は前回の文明時期のもので、当時の人類は既にメキシコで消滅され、ただ少数の人が逃げ出したのです。しかしこのマヤ文化はモンゴル人と直接的な関係があります。具体的なことは触れません。人類は自分の歴史的な淵源が分かっておらず、白人も同じです。前回の洪水の時、前回の人類文明は洪水で壊滅され、地球上の海拔二千メートル以下の高山は全部水没し、二千メートル以上の所に住んでいた人だけが生き残りました。ノアの方舟の話は本当にあった事です。洪水のため、西洋の文化は完全に壊滅されてしまいました。東方文化も壊滅に見舞われ、ただヒマラヤ山脈と崑崙山脈一帯の山に住んでいた人、農村の人などは幸いに免れ、崑崙山に住んでいた中国人は生き残りました。その時、東方文化はとても発達していたので、以前の河図、洛書、易経、太極、八卦等々を継承しました。人々はそれが後世の誰れが作ったものだと言っていますが、すべてその人がそれを変えて新たに持ち出したもので、全くその人が作ったものではなく、全て先史文化です。中国にこれらのものが残されましたが、歴史の発展の過程に起こったことは、それだけではありませんでした。古代のときに残ったものはもっと多かったのですが、伝わっている間に益々少なくなりました。それでは、それは一つの内涵がとても大きく、歴史の淵源がとても深い民族です。それが中国です。一方、白人の文化は全部洪水に水没され、何も無くなりました。当時ヨーロッパ大陸の端にまだ一つの大陸がありましたが、それも沈没しました。そこは一番発達したところでしたが沈んでしまいました。ですから白人は何一つもなく、如何なる文明も無い状態から新たに発展して来たのですが、それが現

在のこの科学です。

中国の古い科学は西洋の実証科学とは違います。多くの考古学者も私とこれらの問題について討論したことがあり、私は彼らに教えました。彼らもその通りだと思っています。彼らには解釈できない難題がたくさんあったからです。私は先ほど人類の宇宙に対する認識でより多くの事を認識することは不可能だと言いました。現在多くの科学者はその研究の基点を誤ったのです。特に彼はこの領域で少しばかりの成果を収めたら、そこから離れなくなりました。彼は自分が認識したものに定義を下し、一つの枠を作ったのです。在席の人々に留学生、博士、修士がたくさんおり、皆さんの考えは開放的なので、彼らの定義は彼の領域内では正しいのですが、一旦彼の認識を超え、彼の境地を超えた時、それはまた間違いで、人を束縛するものだと気づくでしょう。本当に造詣のある科学者ならこれらの枠を突破する勇気があります。アインシュタインもそうですが、彼の認識した領域においてこの説が正しいのですが、この境地を超えたらアインシュタインが言った事は間違いだと気づいたのです。この道理ではありませんか？ 何故かと言うと、人間は昇華した時、思惟状態が高次元の真理に、高次元に近づけば近づくほど、低次元においての認識が間違っていたと分かります。このようなことです。

人類の物質に対する認識も誤っているのではありませんか？ 人間は現在の最大の分子粒子で構成した表面物質と星との間の空間の中だけで、もう分からなくなりました。この空間の間で、彼はこのように発展しあのように発展し、それが絶対的な科学で、物質への唯一の認識で、一番優れているものだと思い込んでいます。それはただ巨大で複雑な宇宙空間の中の極めて極めて小さな微粒子の中で物質世界を認識しているだけです。しかも一つの小さな空間に局限されています。私が今話した星の構造についてですが、それはまた別の系統です。一つの小さな小さな系統から、一粒の塵の系統の中から、無数億のそのような空間から認識したわずかばかりの空間は、つまりある小さな小さな空間で認識したものですので、それは正しいと思いますか？ ですから人類の科学はその発展とその認識が始まった基点から間違ったのです。人類の起源、生命を言い始めると、もっと複雑なので、ここでは話しません。更に話すと生命の起源を言わなければなりません。あまりにも複雑なので、しかもたくさん話すと、高次元のことを話すと、人間は信じなくなります。人間はなんといつでも人間の考えなのです。私はここで話していますが、神が聞いたら信じるのです。彼は神の考えだからです。彼は自分の境地で見たのです。彼の思惟方法は人とは全く異なっています。

私はこのように話していますが、皆さんはお分かりになったでしょうか？ 皆さんに聞きたいのですが、私はこのように話して、皆さんは分ったでしょうか？（拍手）私は常にあることを言っています。昨日も再三に強調しましたが、つまり縁のことで。私たちの多くの人はいつもこの大法をより多くの人に紹介したいと思っています。紹介されると、すぐとても素晴らしいと感じ、しかも積極的に学ぼうとする人がいますが、これは縁があるかも知れません。紹介してあげても、自分の肉親を含めて、聞きたくもなく、信じもしない人がいます。いくら勧めても彼は信じません。皆さんに教えますが、それは彼に縁が無いのかも知れません。勿論この状態は縁という一つの要素で構成したのではなく、本人の悟性の問題もあります。或いは業力が大きいということにも関係しているかもしれません。

私は今日この縁を取り上げて話したいと思います。縁とは何でしょうか？ 以前この問題について説明したことがあります。修煉界では再三縁のことを強調しています。縁はどのように形成されたのでしょうか？ 実は皆さんに教えますが、私たち修煉界でいう縁は短い歴史時期で完全に説明できるものではありません。人間の一生、何世か、ひいてはもっと長い時間を超えています。縁は途絶えることはありません。なぜ絶えないのでしょうか？ 先ほど私は業を返すということ話をした時、如何に人の生命を見るべきかについて言及した時、一つの生命を見るにはその生命全体を見なければならず、彼の一生だけを見てはいけないと言いました。まさにあなたが眠ることのように、今日と昨日があって、昨日のあなたはあなたとして認めないのでしょうか？ それではいけません！ ですから縁はかなり長い時間に及ぶのです。良い物は受け継がれますが、悪い物も受け継がれることがあります。つまり、人と人との因縁関係も絶えることのないものです。人々が普通にいう縁は、多くの場合親縁のことを指しています。つまり夫婦の縁です。これはよく言われる縁です。実は夫婦の縁について私は以前説いたことがあります、それは常人の事です。縁のことを言っているからこれに触れたのです。それはどのように促成されたのでしょうか？ 次のような場合が多いのです。前世で、ある人から恩恵を受けましたが、その人に恩返しする方法がなく、前世の時地位が低かったかも知れません、或いはとても貧乏だったかも知れません。受けた恩恵がとても大きかったので、心の中で恩返しをしようと思っています。それで夫婦の縁が促成されるかも知れません。また、前世である人に憧れていて、或いは二人は互いに憧れていましたが、縁がなく一緒になれなかったのですが、来世の夫婦の縁を促成することがあります。人の願望はとても大事です。何か欲すれば、何かをやりたければ、例えば佛を修めたいと思えば、佛はあなたを助けるかも知れません。何故でしょうか？ この一念は極めて貴重だからです。これほど苦しい環境にいても、まだ佛を修めたいからです。しかし人が魔になりたければそれも阻むことが

できません。一途に悪事をやるならどのように阻むのでしょうか？ 言っても耳を貸さずに、悪事をやります。ですから人の願望はとても大事なのです。

他に親戚、友人や、生徒弟子や、また人と人との恩讐で結んだ縁も、家族になったり、或いは一つの集団になり、社会で社会的な関係を発生することによって、人と人とのトラブル、恩怨に報いがあるようにすることができます。これは全て縁です。皆これを指しています。それは一世で結んだのではなく、数世或いは前世でできたかも知れません。これはこの種の場合を言っています。また、このような関係があり、つまり人間はその一生に彼の恩怨関係があり、親戚友人があり、妻と子供等があるので、この集団に恩怨が存在しているかもしれません。ある人に良くしてあげたり、良くしてあげなかったり、恩返しをしなければならなかったりするなどのことで、来世に集団として転生するように促成されることがあります。しかし、皆一緒に来て、皆一緒に転生することではありません。そうではありません。世に来る時期は早かったり遅かったりそれぞれ違います。年寄りの人も若い人もいます。どのみちこの集団の中で何らかの関連が発生しており、続々と転生してきます。一つの集団でなければ或いは縁の無い人、あなたと関係の無い人なら、町で出会っても、世が隔てているようで、その人と如何なる関係も無いように感じられます。このような人がいると感じ、全くの他人のように思うのです。これはつまり、あなたはその集団から来た者ではなく、彼と何の因縁関係もありません。ですから、往々にして転生してくる時は皆同じ集団で、ただそれぞれ時期が異なるだけです。親となった者もいるし、子供となった者も、友人となった者も、敵となった者も、恩人となった者もいます。先ほど言った縁はこれです。

もちろん、修煉者もこの種の縁から逸脱することができません。あなたは修煉しようとしており、一人の人が修煉すると、昔一人の人が修煉すると祖先までも徳を積み、皆受益すると言われました。あなたは修煉して、佛になったら、彼らの罪は返さなくてもよくなり、皆佛になると言うことではありません。これではいけません。つまりあなたが修煉していた時に今世法を得ると知っており、あなたの周囲にあなたの肉親として転生した者がいるかも知れないし、恩怨のある人々にあなたは法を得させなければならぬかも知れません。このような関係を促成するかも知れません。もちろん、修煉は肉親の情を問わないのです。肉親の情を問わない以上、彼は制限を破り、単独で修煉し或いは一人にしか伝えないものなら、自ら人を選定し、人を選ぶのです。今までの歴代は皆このように修めたのです。普く済度するということはこれから話をする縁のことです。私が話をするこの縁は、在席の皆さんと関係があるのです。あなたには縁があって法を得たかも知れません。それでは、この縁はどのように促成された

のでしょうか？ 皆さんの中になりに多くの方は法を得に来ており、目的があつて来たのです。親戚友人、歴代の弟子であるかも知れません。或いは他の縁でもたらしめたかも知れません。しかし修煉は常人の情を問わず、このようなものはありません。私はいつも言っていますが、法を得るために来た人もいますが、それは昔、この苦しみに耐え、この法を得たいという願を立てたかも知れません。このような要素も含まれています。ですから今世の一時的な過った念が今回法を得ることに影響しないようにと私はいつも言っています。さもなければ、あなたは永遠に後悔してももう手遅れです。実は私の見たところでは縁という糸はほぼしっかり繋がれており、取り残された人はなく、皆法を得ています。ただ精進の度合いに違いがあるだけです。

次に私はもう一つのことについて話します。つまり修煉形式のことです。昨日もこれについて簡単に話しました。一部の学習者は結婚するかどうかの問題に言及しました。結婚したくなく、山に入って修煉したいと思うなど、違う見方を持っている人がいます。私たちの大法を修煉している多くの弟子もこの考えを抱いています。しかし、誰でも知っているように、私が伝えたこの法は主に常人社会の中で修煉し、人間自身の主意識、主元神の次元を高めることを修煉の目的としています。はっきりと苦しみに耐え、自分の利益が侵害されることが分かっているにもかかわらず心が動じません。これはあなた自身を修めているのではありませんか？ この法はあなたが得るのではありませんか？ もし本当に山に入って修煉し、トラブルを避けてしまえば、修煉は遅くなり、長い年月の中で少しずつそれらの心を削り取ることになります。この法を得なければ修めたのは副元神であるかもしれません。山の奥で修煉するなら、このような環境が整わず、座禅し、入定し、長期的に入定しなければならぬかもしれません。そのような状態の下で自分が修煉しているかどうかあなたには分からないのです。あなたは本当にこの複雑な環境の中で向上しているのではないからです。このようなことです。出家した人も主元神を修めることができますが、常人社会こそ、人の心を一番練磨できる場所です。

昔、私たちが聞いた修煉方法ですが、歴代のどの宗教であれ、どの修煉方法であれ、人々に伝えられて来たのは全て山に入って寺に入って修煉し、世間の縁を断絶することを唱えていました。家族の情も捨てて、親がお寺に訪ねに来たとしても、知らん顔をします。「あなたは誰を捜しているのですか？」、「あなたですよ、あなたは私の息子です」、「あ、阿弥陀佛、施主は人を間違えたのです。私は何々と申します」彼は既に名前を法名に変えました。「私は佛門の弟子で、あなたの息子ではありません」本当に世間の縁を断絶しました。今の和尚は修煉しようとしなければいかりか、金を稼いで仕送りします。真に修めるなら、世間の縁を断絶しなければなりません。和尚が出

家すると、人間として見てはいけないと言われている通り、取りも直さずこの道理です。彼はもう神であり、半分はもう神です。現在、修めることができなくなりましたが、往々にして多くの人にもこの古い修煉方法の形式に妨害され、このような方法で大法を修煉したいと思っています。将来はできますが、今はこの条件が整っていません。私が伝えたこの法は目下このような形式で修煉するしかありません。師父である私も山の中にいません。ですから、あなたは修煉のことを思うと山の中に入るやら、出家するやら、結婚しないやら、常人の状態を変えようとしてははいけません。そうではありません。修煉方法はとても多く、八万四千法門の中で私たちの法門だけがこのように修煉しているわけではありません。ですから、私が言ったのは以前の幾つかの修煉方法と古い観念に影響されないようにと説いたのです。私が今日あなたに教えたのは斬新で、真にあなたを一番速く済度する修煉形式です。将来は将来の修煉方法があります。実は私は本の中で言いましたが、人間が修煉したいと思っても、それは口で言うほど易しいものではありません?! 一生懸命修めても、実は修めたのはあなたではなく、あなたはまだそれを知らないのです。

皆さんに教えますが、昔多くの神は人の主元神があまりに済度し難いということに気づいたので、副元神を済度する方法を取りました。一人をこのように済度したら良かったと思っており、またこのように済度すれば良いと思って、それで皆このように済度したのです。このような一種の認められた人を済度する形式が形成されたのです。しかしそれは人間に対して不公平です。この人は修煉していますが、済度されたのは他の人です。それは不公平だから敢えて世に公開せず、人にも知らせないのです。私は人にそれを明らかにしました。何故でしょうか? 私は人が本当に法を得られるようにしているからです。このような状態を変え、自分自身を修煉できるようにしています。同時に、もしこのように修煉すれば、社会に対して有益で、向上した時あなたはきっと社会で一人の良い人になります。これは最も良いことです。ですから、私はこのことを正そうとしています。しかし一部の神も長い歳月の間にこのように修めて向上し、つまり副元神が修煉して上がったので、私が皆さんにこの法を伝えることを妨害しています。皆さん考えてみてください。この法を伝えることはとても難しいことだけではなく、得ることも容易なことではありません。最後に神、佛、道らは私がどのような事をしているかが分かり、効果が非常に良いと見て、今は皆分かってくれました。

当初私が中国で法を伝えたときはとても難しかったのですが、もちろん今はわりとやりやすくなりました。特にアメリカに来てから、皆さんは簡単に法を聞くことができました。先ほど私は私たちのこの修煉形式が過去の観念に影響されないようにと言

いましたが、私たちはこの方式で修煉しています。もちろん皆さんが修煉し終えてから、将来は将来の人の修煉状態があります。将来の人は法についてこれほど多く知ることができません。今は特殊な歴史時期にあるので、この法を伝えました。将来の人は私が誰であるかも知らず、将来の人に私の形象も残しません。録音テープ、ビデオテープですが、今録音録画を取っていますが、将来に残すことはできず、全て消去されてしまいます。昔、釈迦牟尼佛は弟子を率いて修煉する時、物質的利益に対する執着心を起こさないように、お金と物を貯めることを許さなかったのです。どんなものでももらってはならず、ただ袈裟一枚、托鉢用のお碗一つだけです。しかし、往々にして人間に捨て難い心がたくさんあります。一時期多くの人はこのお碗を収集していました。「私のお碗は銅のものだ、私のお碗は玉のものだ、私のお碗はきれい、私のこのお碗は銀のものだ」と比べ合っていました。お碗をたくさん貯めた和尚も出てきました。釈迦牟尼佛は次のように説きました。もし物に対する執着心があれば、家に帰ればいい、家に何でもあり、何を貯めてもいいのです。なぜ托鉢用のお碗に対しての未練を放棄できないのでしょうか？ 出家した人は何でも放棄しなければならず、なぜお碗を収集するという一念さえ取り除かないのでしょうか？ 財宝も無くなったのに、お碗に対してまた執着するのでしょうかと言いました。釈迦牟尼佛はつまり一念、僅かな執着でさえも残さずに、捨てなければならず、この心を持ってはいけないと言ったのです。

釈迦牟尼佛時代の和尚のお碗はとても小さく、一食分しかもらえませんでした。今の和尚は、とても大きなお碗を使っています。昔は鉢、今は磬を持っています。磬を持って乞っています。飯をあげたら全然欲しがらずに、金を欲しがっています。物質利益、お金に対してそれほど強く求める心があって、それは修煉なのでしょう？ 皆さんに教えますが、金銭は修煉者にとって最大の障害です。先ほど話したのは出家した人のことです。しかし、大法修煉は物を重んぜず、心を重んじています。常人社会で仕事をしながら修煉しますので、金がいくらあっても構いませんが、ただ金に執着する心を捨てないといけません。金の煉瓦で家を建てても、頭に何も思わず、重く見ていません。常人の中で修煉しているから、どんな仕事をする人もいます。商売をすればお金を稼ぎますが、何も思わなければ何の差し支えもありません。大事に見なければ、あってもなくても同じです。それならあなたはこの関門を乗り越えました。家は相変わらず金であっても、かまいません。私たちはこの心を捨てることを要求しています。修煉は物質上から何かを捨てることではなく、こうして始めて世間に合って修煉することができます。皆修煉して、何もやらなくなれば、この社会では何を食べるのでしょうか？ これではいけません。私たちは人の心だけを重んじ、人の心を真っ直ぐに指し、真にあなたの心性を向上させます。物質上から何かを取り除く

のではありません。これは今までの伝統的な修煉方法とはっきり区別しなければなりません。ただあなたにその心が有るか無いかを試すために、却ってその方面から厳しく試練します。

修煉者がもし大法の中で修煉すれば、私たちはこのような方法でやります。これらの執着心を全て淡泊にしなければなりません。将来專業の修煉者はお碗を持って托鉢し、各地を行脚しなければなりません。世間の苦しみを嘗め尽くしてはじめて圓滿成就できます。将来の出家した人はこのように修煉します。

苦しみに言及しましたが、皆さんに教えますが、修煉はきっと苦しいのであって、苦に遭うのです。大法を修煉することができるのは福があるからですが、修煉すると難儀に見舞われます。きっとそうなります。しかし往々にして人間が僅かな苦しみに遭い、僅かな苦難に遭ったら、悪い事だと思ってしまう。「どうしてこんなに具合が悪いのでしょうか、そんなに気分が悪いのでしょうか」等等。もし一生何の苦難もなければ、皆さんに教えますが、その人はきっと地獄に落ちるに違いありません。一生何の苦難もないことはともかく、一生病気に患われなければ、死後百パーセント地獄に落ちるのです。生きている限り業を造っています。業を造らないことはあり得ません。口を開くと、他人を傷つけたかも知れません。言い出した話は、知らないうちに他人を傷つけてしまいます。相手に何かを話したとき、本人は気にしませんでした。別の人が聞いたら、その人を傷つけたかもしれませぬ。人間は生きている限り、食べた物、ひいては道を歩いても生物を踏み殺しています。もちろん、先ほど話したように、世に生きている以上、人間は業を造っているのです。もし病気に罹らなければ、業を消すこともできません。人間は病気で苦しんでいる時、本当に業を消しています。消したら治るはず。往々にして大病に罹って、暫く経って回復したら、満面に赤みがさし、何をしても順調にいきます。業が消され、福、即ち徳に転化したから。苦しんだから、何事をしても割合順調にいきます。簡単に成し遂げます。人間はこれらのことが見えないので、僅かな苦を嘗めたら、悪い事だと思えます。実は、苦を嘗めることのどこが怖いのでしょうか？！ 少し苦しんでも、心を鬼にして耐えれば、どんなことをしても以前とは状態が違います。私に言わせれば、修煉はほかでもなく、苦だけではありませんか？ もし放棄できれば、きっと圓滿成就になります。更に少し高い次元の話をするれば、もし生死の念を放下できれば、あなたは本当に神になります！

昔、阿弥陀佛は私の佛号を読めば、極楽世界に往生することができると言いました。どうしてそんなことがあり得るのでしょうか？ 彼が言った意味は表面で理解でき



るものではありません。佛号を読めば確かに極楽世界に行くことができますが、人々は皆表面で佛の話を理解しています。佛法には異なる次元の内涵があります。彼の佛号を唱えるのはつまり煉功していることです。頭の中に何も無く、阿弥陀佛という文字だけがあって、一念で万念を代替し、頭が全部空になるまで唱え、何も無く、阿弥陀佛だけが残ります。佛号を唱える時は無数の執着心と各種の妨害がありますが、あなたはそれと対抗し切れますか？ 全ての執着を放下し、心の中の念が空になれば、修煉の目的を達することになります。佛号を唱えることは佛に対する崇敬の気持ちをも表しています。極楽世界に行こうとするから唱えているのであって、当然、極楽世界の佛はあなたを見守ってくれるのです。あなたは佛を修めているからです。中の内涵はとても深いのです。死ぬ前に阿弥陀佛を唱えれば極楽世界に行くことができるという人はいますが、どういうことでしょうか？ 本当に生死の念を放下できれば、あなたは確かに行くことができます。人と神との区別は、ここに 있습니다。生死を放下できればあなたは神になり、生死を放下できなければあなたはやはり人間です。つまりこの違いです。私たちは長く修煉して、如何なる執着をも放下したら、生死までも放下したのではありませんか？ 人間がすぐに生死まで放下することができれば、まだどういうことに執着するのでしょうか？ 既に法を得た以上、生死までも恐れず、命も捨てることができれば、まだどういうことに対して執着し得るのでしょうか？ この道理です。人間が死ぬ前に、怖くてたまらず、「ああ、私はすぐ死ぬ、息がもうすぐ引き取るのだ」と思う人がいますが、それはどういう心境でしょうか？ しかし死ぬ前に恐れることなく、まだ阿弥陀佛を唱えている人なら、極楽世界に行かないはずはありません。何でも放下し、彼にとっては生死の概念は全くありません。人間の一念は長きにわたる修煉を基礎としているのです。常人の考えは極めて複雑で、如何なる心もあり、生死の間際に恐れないはずはありません。大道は簡易を極めると言われており、多くの事はとても簡単ですが、具体的に詳しく話せば、多くのことを言わなければなりません。ところがもし直接にあなたに教えても、あなたもそこまですることができず、人々もそこまで深く理解することもできません。皆字面、表面から理解しているので、皆さんに法を説く必要があります。